



神奈川県議会議員 守屋てるひこ 県政レポート

編集発行：守屋てるひこ事務所
小田原市荻窪 317-1 イセトヨビル 2階
電話 43-9918 FAX43-9917

◆平成最後の年を迎えて

平成最後の年を迎えました。今年はラグビーワールドカップが開催されます。その決勝戦は11月2日に横浜国際総合競技場で開催されます。キャッチコピーは「四年に一度じゃない。一生に一度だ。」です。確かに、次にラグビーワールドカップが日本で開催されるのは、いつになるかわかりませんし、最初で最後かもしれません。

小田原では、オーストラリア代表チーム（通称ワラビーズ）が事前キャンプを行います。これに先立ち、昨年10月に約一週間のキャンプを行い、その間にも市民との交流事業が実施されました。世界トップクラスの選手が発する存在感の大きさを体感された方も多いのではないのでしょうか。一生に一度しかない、このビッグイベントを楽しみましょう。

さらに、来年は東京オリンピック・パラリンピック大会へと続きます。世界的なビッグイベントが続けて行われることに期待感が高まります。

今年4月30日をもって30年続いた平成の時代に幕を下ろし、新たな時代が拓かれます。平成を振り返るキーワードに平和と自然災害があります。平成は日本において戦争のなかった時代であります。戦争を知らない世代が大半を占める時代となりましたが、国際的な安全保障の枠組みが変化する中で、これは次の時代にもしっかり継承していかなくてはなりません。一方、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震をはじめ、大規模地震が多発しました。近年では地震以外にも大型の台風や豪雨が頻繁に発生しております。地球温暖化に伴う気候変動の影響が私たちの日常生活への大きな脅威となってきております。残された時間的猶予はありません。各国の利害を超えて、世界中の共通の目標として進めていかなければなりません。

期待と不安の入り混じった時代の幕開けとなりますが、臆せずに堂々と進んでいきたいと思えます。

◆災害対策

昨年は風水害の多い年でした。特に7月の台風12号、9月の台風24号は本県に大きな被害をもたらしました。

台風12号は、漁船や定置網の破損、水産業や漁港、港湾設備などが県西部を中心に約2億1千万円

の被害となりました。小田原漁港では小田原市が整備している交流施設にも被害が及びオープン時期の変更を余儀なくされました。人的被害がなかったのは幸いですが、大勢の観光客がいた時間帯だったらと思うとゾッとします。県としては今後の被害を防ぐため、漁港施設の構造の安全対策を進めてまいります。また、国道135号線の的確な道路封鎖を行うため、直ちに監視カメラを増設しました。

台風24号は農業用ハウスの破損や野菜果樹の損傷、農業用取水施設の破損など農畜産業被害6億4千万円、林業被害約1億円、水産業被害約4千万円、合計約7億8千万円の被害となりました。県では、台風24号により被災した農業者に対し、農畜産物関連施設の再建・修繕のために、約5億円の補正予算を組んだところです。公的予算の執行には様々な書類や手続きを要するため、時間がかかりすぎるとの批判があることから、手続き前の事前着工を認めていくことも申し入れいたしました。できる限りの対策を講じてまいります。



《被災した小田原漁港の交流施設》

◆神奈川フェスティバル in ハノイ

昨年11月16日～18日の日程でベトナムのハノイにおいて、「神奈川フェスティバル in ハノイ」が開催されました。神奈川県ではこれまで横浜で「ベトナムフェスタ in 神奈川」を4回開催してきましたが、日越外交関係樹立45周年事業として、今回は初めて海を渡っての開催です。私は1泊4日というタイトな日程でしたが、このフェスティバルに参加してきました。経済プログラムや観光誘致などの事業もありましたが、なんといっても今回の最大の目的は、小田原から風魔忍者を輸出したことです。

忍者を活用した観光振興については、これまで本会議で2回質問をしてきました。特に昨年6月に行った一般質問では、知事から、「国際的なイベントを活用して風魔忍者を大胆にPRし、その海外での反響を国内へ逆輸入する仕掛けを企画するなど、立ち上げ期の支援をしていく。」との答弁を引き出し、今回のイベントにつながったものです。

風魔小太郎を演じた、小田原ふるさと大使の合田雅史さんも炎天下の中、4回のステージをこなし、観客の反応に手応えを感じたようでした。ラストステージには黒岩知事もサプライズで登場し、会場の興奮はピークに達しました。私も「NINJA」のもつ発信力の大きさを改めて確信しました。地元、小田原でもこれに連動した企画が動いておりますので、この機を逃さずに、観光協会などと連携しながら進めてまいります。



《FUMA NINJA LEGEND OF ODAWARA》

◆ 2期8年を振り返って

東日本大震災の影響が深刻な中行われた平成23年4月の県議会議員選挙において初当選させて頂き、2期8年が経過しようとしております。振り返れば、選挙前年の10月に神奈川県庁を退職し、わずか半年間しか準備期間がなかったにも関わらず、29896票という過去最高の票を頂き、トップ当選させて頂きました。

最初に所属した委員会が環境農政常任委員会であったこともあり、まず取り組んだのが、神奈川県産のお茶・足柄茶の復興でした。福島第一原子力発電所事故に伴い、足柄茶から放射性物質セシウムが検出され、出荷目前の足柄茶は壊滅的な被害を受けました。この影響がいつまで続くのか不安な中、生産者や研究者、県の指導員と意見を交わし、復興への道を探りました。併せて、2年間に及ぶ特別委員会の議論を経て、いのちを最優先に自助・共助・公助の協働による災害対策を進めるための「神奈川県地震災害対策推進条例」を制定しました。

また、黒岩知事の一丁目一番地の政策である、再生可能エネルギーの普及にも取り組み、議員提案により、「神奈川県再生可能エネルギーの導入等の促進

に関する条例」を制定しました。平成28年の厚生常任委員会副委員長の時には、津久井やまゆり園事件が発生し、大変なショックを受けました。そして、これを教訓に「ともに生きる社会づくりかながわ憲章」を議会主導で制定しました。その他、自ら「未病の伝道師」を名乗り、未病を改善する取り組みを進め、ヘルスケア・ニューフロンティア政策をWHOとともに進める役割も担いました。

党務では、自民党県連副幹事長、同政務調査会副会長、自民党県議団副団長など、様々な役職を経験させて頂き、政策実現のために必要な政治力の大きさや、関係機関との調整の重要性を学び、一生懸命頑張ってきました。



《選挙戦街頭遊説活動》

◆ 新たなる挑戦への決意

私はこれまで県議会議員として、小田原のために全力を尽くしてまいりました。資源豊富な小田原であれば、もっとスケールの大きな、もっとスピード感のあるまちづくりができる、世界で一番住みたいまちにできると信じております。そこで、私は、熟慮に熟慮を重ねたうえ、県議会議員の活動に終止符をうち、自らが小田原市長という直接のリーダーとなって、郷土・小田原の発展のために全身全霊をかけて挑む決意を固めました。

県職員として、また県議会議員として培ってきた経験や、知見、人脈を最大限に活かして、不退職の決意で小田原のために尽くしてまいりる所存です。新しい時代の幕開けとともに、新たなる目標に向かい邁進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

これまで2期8年間で16本の県政レポートを発行してまいりましたが、今期で県議会議員としての活動に区切りをつけるため、本号が最後の県政レポートになります。次は、どのような形で私の活動を報告をすることになるか、現時点では未定ですが、今後も積極的な情報発信を心がけてまいりますので、よろしく願いいたします。